

弘前市立朝陽小学校

TEL 32-3647

第7号 2025.10.22

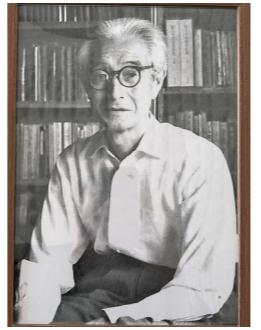
## 時代と共に ~津軽弁~

校長 奈良篤志

9月の全校集会で、失われつつある津軽弁のお話をしました。左下の表は中学校の国語の授業で生徒たちが家族や親戚に聞いて集めてきた、使われなくなってきた津軽弁の単語です。

じやんぱ	けり	むんつけら	あれね	まんつこい	さがしい	はぐらん	へんかす	たなぐ	あこもこ	めんじや	津軽弁	意味
がめる	どさ	えへる	とろける	ちょす	ちゅはんめ	どんす	あぐど	へなが	おどげ	まなぐ	津軽弁	意味

皆さんはいくつ答えられますか？ 弘前市内では使われていない単語も含まれているようですが、なかなか全問正解とは行かないと思いますが、どれだけ埋められるかご家族でぜひ挑戦してみてください。（答えは次のページに）



さて、この講話の中で一人の詩人も紹介しました。それが、右の写真の一戸謙三さん（明治32～昭和54）です。

一戸さんは明治38（1905）年に入学した本校の卒業生で、大正8年（1919）年に弘前の「パストラル詩社」の同人となり、高木恭三氏とともに方言詩を継承していました。

昭和23年に弘前市立第一中学校の教諭として勤務し、詩作を続けながら生徒らの詩心を育てました。方言詩「麗日（オデンキ）」は中学校国語の教科書にも取り上げられています。

言葉は時代と共に変化していく、津軽弁の単語や発音、イントネーションも、どんどん失われつあることを実感します。今週末の学習発表会で、5年生が津軽弁でのナレーションを披露する予定ですが、練習をしないと話せない児童がたくさんいることに驚かされました。

方言はダサいと言われた時期も長くあったように思いますが、今ここに来て、方言が見直されてきています。テレビでも方言女子が取り上げられたり、タレントの王林さんが全国ネットで堂々と津軽弁で話したり、りんごミュージック所属のアーティストの皆さんが津軽弁の曲を歌ったり、津軽弁でトークをしたりと、方言が魅力ある言葉として脚光を浴び始めている気がします。

私も津軽弁が大好きな一人ですが、今を生きる子どもたちが少しでもその魅力に気づき、（無理のない範囲で）継承してくれればなと願っています。

枝垂柳も青グなた。	ああ春だじやな！	あおはる	さんけね	おど	おどして	あおぞら	くちばしふ	くちばしふ	おでんき	麗日
だれやなぎ	あお	はる	さんけね	おど	おどして	たご	かぐじ	かぐじ	おおやね	青空ネ
あおはんめ	あお	はる	さんけね	おど	おどして	おおやね	おおやね	おおやね	おおやね	大屋根サ
あおはんめ	あお	はる	さんけね	おど	おどして	あおぞら	あおぞら	あおぞら	あおぞら	口笛吹工で
あおはんめ	あお	はる	さんけね	おど	おどして	あおぞら	あおぞら	あおぞら	あおぞら	裏背戸サ出はれば
あおはんめ	あお	はる	さんけね	おど	おどして	あおぞら	あおぞら	あおぞら	あおぞら	一戸謙三

おど

おどして

あお

はる

さんけね

おど

おどして

あお